

## 小田原市教育委員会協議会会議録

1 日時 平成20年2月20日(水)午後7時55分～午後8時30分

場所 小田原市役所 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 青木秀夫 (教育長)

3番委員 桑原妙子

4番委員 安藤實英 (教育委員長)

5番委員 横田俊一郎 (教育委員長職務代理者)

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 和田豊

教育政策課長 曾我勉

学校教育課長 佐宗修二

課長補佐・学事担当主査事務取扱 栢沼一郎

課長補佐兼指導主事・指導担当主査事務取扱 長澤貴

(事務局)

教育政策課課長補佐・教育政策担当主査事務取扱 杉山博之

教育政策課主査 望月啓一郎

4 議事

(1) 報告事項

① 平成20年度学校教育のねらいと基本方針について(学校教育課)

5 議事の概要

(1) 報告事項

① 平成20年度学校教育のねらいと基本方針について（学校教育課）

学校教育課長補佐・指導担当主査事務取扱…報告事項「平成20年度学校教育のねらいと基本方針について」御報告させていただきます。資料をご覧ください。この内容につきましては、本日確認をいただいた後、3月上旬に各校に通知を行い、来年度の各校の教育計画作成の指針としていただくものです。1ページ目は、小田原市学校教育推進計画の一部を抜粋したものです。現時点で変更はございません。2ページ目ですが、来年度の重点が説明してあります。19年度と比べ、大きく3点が変わっています。まず、目指す学校像として、「子どもが幸せを感じられる魅力ある学校」「保護者・地域の方々・教職員の三者が、学び合える学校」をめざしていきたいと考えております。2点目は、地域一体教育に加え幼・小・中一体教育の推進を位置付けたということです。3点目は、支援教育の充実の項目から、不登校への取り組みを独立させ、最優先課題として対応していこうというものでございます。

それでは、内容を簡単に説明いたします。「豊かな心を育む教育の充実」と「確かな学力の向上」をバランス良く身につけるためには、学校の内外で、「地域一体教育、幼・小・中一体教育の推進」が大切であると考えます。この2つの教育理念を融合することで、魅力ある学校づくりをしてまいりたいと考えます。そして、学力だけでなく人間形成の場でもある学校で、子どもたちが多くのことを学んでほしいと考えます。そのためには「不登校にならない」、不登校を解消し、1人でも多くの子どもが幸せを感じられる魅力ある学校で、元気に学習や生活をしてほしいと考えています。今申し上げたこの4つを最重点課題として示し、学校評価の共通評価項目として設定し、各校で学校評価に役立ててほしいと考えています。

次のページには、グランドデザインを示しています。これは、主に学校教育課、教育研究所のものですが、今お話しした重点要素をグランドデザイン化したものです。「魅力ある学校づくり」を目指すことで、教育長の方針の第1である「子どもの幸せ」を実現するため、来年度は数値目標を設定することになっています。具体的には、まず、学力向上の観点からは、「全国学力・学習状況調査の結果」が、県平均を上回る数値を目指してほしい、と考えています。また、「おだわらっ子検定」では、受検者総数を60パーセントを

目指していくということになります。これは、先進市の木更津市の数値を参考にしたものです。合格者数の数値目標は、まず実施してみてからにしたいと考えています。「不登校への取組み」では、3年間をかけて、出現率が、全国平均を下回るようにしたいと考えております。「地域一体・まちぐるみの教育」のスクールボランティアの充実では、児童生徒一人あたりの登録者数を、現在の0.34人から、徐々に増やし平成22年度には、0.5人にしていけたらと考えています。「幼・小・中一体教育の推進」では、中学校区ごとに、幼・小・中一体教育研究会を組織し、全教職員が参加する研究会を実施してほしいと考えています。また、「幼・小・中一体教育と地域一体教育の融合」では、おだわらっ子の約束にもうたわれているように、朝食の摂取率において、市内全校が全国平均を上回るよう努力してほしいと考えています。そして、これらの目標を一つでも各学校がクリアできるように、右上にあります、平成20年度の教育長のキーワード「やる気・本気・根気」を胸に取り組んでほしいということをございます。

安藤委員長…素晴らしい内容だと思えますが、だからこそ3ヵ年計画とか5ヵ年計画とか、1年で終わらせないような工夫はできないでしょうか。時代の要請で変更が必要な部分も生じるでしょうが、基本は変えないようにすれば、非常に見通しが良くなると思えますが。1年だけの計画でもったいないように思います。また、不登校への取組み方ですが、これはケースワークであり、いじめ、家庭環境、心の不調、先生との関係など、個々に事情は異なります。一律に数字だけで捉えるのはどうでしょうか。数字目標ですと、ボーダーラインのケースなどは採り上げられなくなるおそれもあります。家庭環境が理由であれば、学校では対処できないということもあります。

青木教育長…学校現場にいたときも、具体的な目標を設定しないと不登校が減らないのでは、という認識がありましたが、現場の先生にも抵抗感があったのは事実です。

安藤委員長…不登校となる事情は、本当に様々なのですが、それを一つの評価値で表すのは無理も生じると感じますので、一考していただければと思います。また、教職員の資質の向上が採り上げられていますが、叱咤激励の一方で、人間性を取り戻せるような機会、休暇やゆとりを与えるべきではないかと思

います。有給休暇も効果的に消化していないのではないのでしょうか。市民の理解を得ながら、教職員がリフレッシュして子どもに向かい合ってもらいたいと思います。土日も部活動で休めないこともあると思います。

学校教育課長…確かに教職員も多忙を極めているということがあります。教育委員会でも「多忙化検討委員会」を立ち上げ、研修や会議を減らしたりしていこうと取り組みを進めています。また、夏休み・冬休み・春休みでも、研修会に参加するなど教職員は勤務日になっておりますが、そうした機会に有給休暇をうまく使ってもらえるような方向で動いております。

安藤委員長…私の保育園でも、職員に完全にリフレッシュできるような機会を設けるようにしていますが、学校の先生も、校長先生を含めて、ほっとできるような機会が必要だと思います。

横田委員…不登校を減らすのは難しい問題と思いますが、原因を類型化し、何が中心なのか等、実態をもう少し調査した方が良いと思います。原因によって対応の仕方も異なってくると思います。

学校教育課長補佐・指導担当主査事務取扱…平成18年度の中学校の状況は調査しております。

45パーセント近くは学校での人間関係となっております。25パーセント位は学業不振、体調の関係では11パーセント位、それ以外は家庭環境や生活習慣の問題となっております。現在も、小学校の状況等も含め、実態や対応の状況の報告を受けているところで、それを資料化しています。来年度以降も、教育研究所の方で担ってまいります。

安藤委員長…コミュニケーションができない子どものケースが多い。小さい頃から自分の意思を伝える学習が必要ですが、子どもが少なく、親がかまってしまうからか、そうした機会が少なくなっています。それが人間関係の問題となり、不登校にもつながっているのではないのでしょうか。

先ほどの話ですが、この方針を1年で終わらせるのはやはりもったいないと思います。

青木教育長…キーワードにも掲げましたように、根気というものは大事だと考えています。

安藤委員長…方針が1年で変わってしまうということだと、学校としても意欲がわかないのではないのでしょうか。

横田委員…「すこやか親子21」という計画は10年計画で、5年で見直しということになっています。数値目標がたくさん掲げられています。

桑原委員…この基本方針を例えば3年計画にするということではできないのでしょうか。

学校教育課長補佐・指導担当主査事務取扱…1ページに説明してございます小田原市学校教育推進計画は、10年計画になっております。2ページ目につきましても、太字になっている部分は、引き続き重点にしております。ただ、数値目標が新たに加わったということです。

横田委員…小田原市学校教育推進計画にも数値目標が入っていれば分かりやすいと思います。

山田委員…おだわらっ子検定の問題作成は、どうされるのでしょうか。

学校教育課長…大学教授にも関わっていただき、独自の問題を作成してまいります。作成する問題の難易度に応じて合格率が異なってきますので、合格率の目標は2回目以降を考えています。

安藤委員長…この基本方針と各学校の目標や計画との関係はどうなっているのでしょうか。

学校教育課長補佐・指導担当主査事務取扱…基本方針を基に、各学校で自らのグランドデザインを作成してまいります。

安藤委員長…この基本方針が学校現場の隅々まで行き渡るようになっていけばよろしいかと思います。

青木教育長…やはり、教育委員会と学校との整合性をつけていかないと、教育がちぐはぐになってしまいます。また、学校の状況を外に向かって公表し、評価をいただくということがあり、そうした取り組みが必要だと考えています。

安藤委員長…これからは、地域や市民の方に学校の状況を理解してもらえよう、学校としても取り組むべきと思います。

横田委員…また、学校や先生に対する良い評価、感謝の言葉も、広報などを通じて宣伝してほしいと思います。

(その他質疑・応答なし・協議会を終了)